



ラクオリア創薬株式会社

2022年12月期第2四半期決算説明会

2022年8月17日

イベント概要

[企業名]	ラクオリア創薬株式会社
[企業 ID]	4579
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 12 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期
[日程]	2022 年 8 月 17 日
[ページ数]	44
[時間]	15:30 – 16:24 (合計：54 分、登壇：41 分、質疑応答：13 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	9 名
[登壇者]	3 名 代表取締役 武内 博文 (以下、武内) 取締役 執行役員 管理・経営企画担当 須藤 正樹 (以下、須藤)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



財務経理部長

杉山 英史（以下、杉山）

[アナリスト名]* みずほ証券

都築 伸弥

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から、ラクオリア創薬株式会社様の IR ミーティングを開催いたします。

最初に、会社からお迎えしているお三方をご紹介します。代表取締役、武内博文様。取締役、執行役員、管理・経営企画担当、須藤正樹様。財務経理部長、杉山英史様。

本日は、武内様からお話をいただき、ご説明が終わりましたら質疑応答とさせていただきます。

それでは、武内様、よろしくお願いいたします。



目次

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

1. ビジネスハイライト

2. 第2四半期業績

業績概要・事業収益・研究開発費・連結貸借対照表・キャッシュフロー

3. 今期の見通し

4. トピックス

動物薬・テゴプラザン・創薬研究における新たな取り組み

5. パイプラインの状況

導出済みプログラム・導出準備プログラム

6. 事業計画

投資戦略・中期事業計画・資金の状況と配分

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

4

武内：本日は、足元の悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ラクオリア創薬株式会社、代表取締役の武内です。

では、早速、説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



きょうの構成は、こちらに書いているアジェンダの流れに沿って説明させていただきます。



2022年12月期第2四半期の概況

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

連結経営成績	<p>事業収益1,447百万円。通期計画の55%に到達</p> <ul style="list-style-type: none">● 営業利益551百万円、経常利益681百万円、四半期純利益469百万円● 自己資本比率88.4%（前期末比比2.9%減）● キャッシュフロー：現金および現金同等物残高 2,845百万円（前期末比605百万円増） <p>今期業績見通しは据え置き</p> <ul style="list-style-type: none">● 事業収益2,605百万円、事業費用2,184百万円、営業利益 420百万円
上市品	<p>ペット用医薬品の売上堅調</p> <ul style="list-style-type: none">● GALLIPRANT®/ENTYCE®/ELURA®：高い成長率を維持して堅調に推移 <p>テゴプラザンの市場は順調に拡大</p> <ul style="list-style-type: none">● 韓国売上高（院外処方実績） 606億ウォン（約60億円、前年同期比21.1%増）● 中国での承認取得・販売開始（4月）● フィリピンでの承認取得（5月）● HKイノエン社がインドを含む7か国を対象としたサブライセンス契約締結（5月）
研究・開発	<p>研究開発への投資を継続</p> <ul style="list-style-type: none">● テゴプラザン国内臨床開発準備・グレリン受容体作動薬前臨床試験● 探索研究では新たな開発候補品創出へ向けた取り組みを継続● AIの活用、新モダリティへの展開を目指した外部連携
テムリック	<p>タミバロテン</p> <ul style="list-style-type: none">● Syros Pharmaceuticalsにおける臨床開発が進行中● がん幹細胞の増殖抑制剤の欧州における特許査定

HKイノエン社：HK inno.N Corporation；換算レート：1韓国ウォン=0.10円

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

6

まず、ビジネスハイライトです。

連結の決算の成績でございますが、事業収益 14 億 4,700 万円、通期の計画に対して 55%の達成率で、まずまず順調な達成率となっております。営業利益が 5 億 5,100 万円、経常利益が 6 億 8,100 万円、四半期純利益が 4 億 6,900 万円となっております。

今期の業績見通しでございますが、今年度に関しては一旦据え置きとしております。細かな点は、後ほど中計の修正と併せてご説明させていただきます。

上市品の状況でございますが、ペット用医薬品の売上はいずれも堅調に伸びております。

テゴプラザンに関しましては、韓国でも順調に売上をまだまだ伸ばしてございまして、院外処方の実績ではございますが、数字にして 606 億ウォンという形で、日本円に直して約 60 億円、前年対比では 21.1%の増という形で順調に伸びております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



この他、今期のトピックスとしましては、中国での承認取得、販売開始が4月にお知らせさせていただいたとおりでございます。これは当初計画よりはかなり前倒しになったものでありまして、われわれとしては予想以上に速いスピードで承認されたことを歓迎しているところです。

この他、フィリピンの承認取得が5月、HK イノエン社様が地図で埋まっていなかったインド他、7カ国を対象としたサブライセンスを締結されまして、これもマイルストーンという形で収益に反映しております。

研究・開発に関しましても投資を継続しております。テゴプラザンの国内の臨床開発の準備のための各政策や設備投資を行っている他、グレリン受容体作動薬の前臨床試験を現在実施しております。

この他、探索研究では、新たな開発候補品の創出に向けた取り組みを継続的に行っております。

この他、いろいろな取り組みとして、昨今、AI創薬とか、各社でもいろいろな取り組みをなさっておりますし、当社もそうした取り組みを行っております。今回、二つお知らせできることがあります。そちらで詳細を述べさせていただきます。

あと、子会社になっているテムリックのタミバロテンですけれど、こちらはパートナーの Syros さんのほうで順調に臨床試験が進んでいるところです。

がん幹細胞の増殖抑制剤の欧州における特許査定、これを得られたのが、今回お知らせできるトピックスになっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



事業収益1,447百万円（前年同期比9.6%増）

- 事業収益および利益が前年同期に比べて大幅に増加

	前年度同期	
	2022年12月期 第2四半期	2021年12月期 第2四半期
事業収益	1,447 百万円	1,320 百万円
営業利益	551 百万円	314 百万円
経常利益	681 百万円	432 百万円
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	469 百万円	302 百万円

四半期の業績でございます。

数字は先ほどと一部重複しますが、それぞれ事業収益が14億4,700万円、営業利益、経常利益、親会社に帰属する四半期純利益はこちらに記載のとおりです。

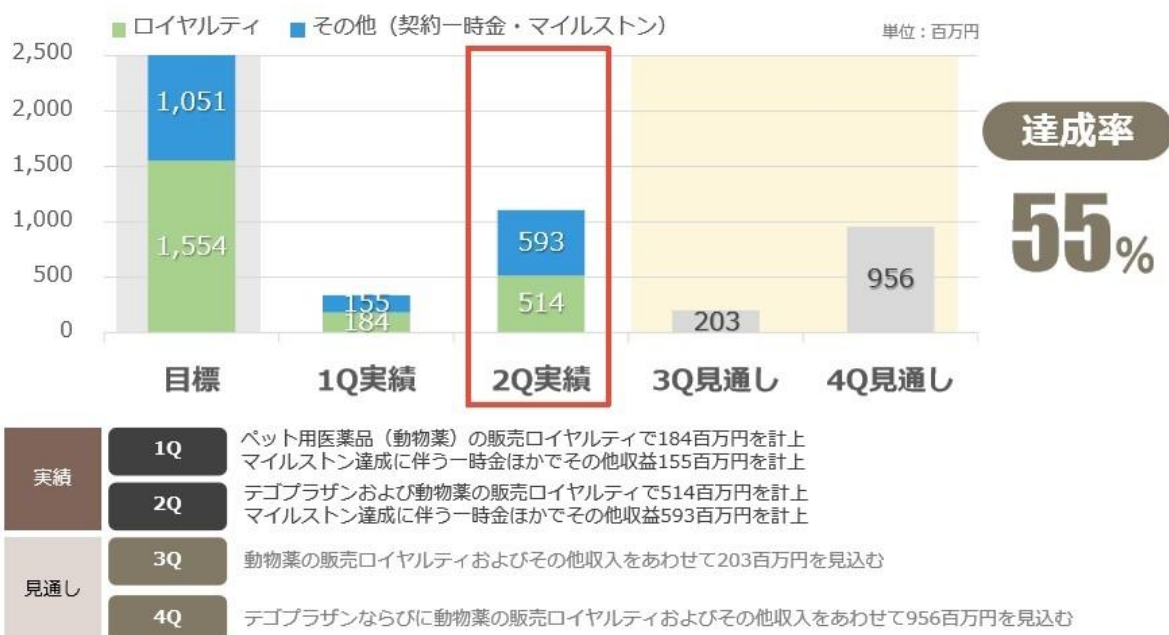
前期に比べまして順調に伸びておりまして、一つはテゴプラザンの売上が順調に伸びているところで支えられているもの、あと子会社のテムリックでロイヤルティが生じたということで、今期は堅調に数字を伸ばしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

通期計画 2,605百万円に対し累計で1,447百万円を計上

- **ロイヤルティ**：テゴプラザン・動物薬の販売堅調で累計699百万円を計上
- **その他**：テゴプラザンの中国での承認・発売の一時金300百万円。累計748百万円を計上



内訳の概要でございます。

第2四半期としては、ロイヤルティが5億1,400万円、上半期全体としては6億9,900万円、約7億円に迫る売上を計上しております。

この他、一時金としましては、5億9,300万円、あと1億5,500万円が契約一時金、あるいはマイルストーンという形で、その他の収益として計上しております。

今、達成率55%という話をしましたが、第3四半期、第4四半期、今のところは特に変動をしないということで述べさせていただきましたが、われわれとしては、少しでも多くの収益を計上できるように、現在ライセンス活動も含めて取り組みを行っているところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

通期計画 1,474百万円に対し累計で528百万円を計上

- 開発候補化合物創出に向けた取り組みにより研究費481百万円を計上
- グレリン受容体作動薬およびテゴプラザンについて開発費46百万円を計上



実績	1Q	探索研究を軸に263百万円を計上 グレリン受容体作動薬の前臨床試験が進行中。テゴプラザンの臨床開発準備に着手
	2Q	探索研究を軸に264百万円を計上 1Qに引き続き、グレリン受容体作動薬の前臨床試験とテゴプラザンの臨床開発準備
見通し	3Q	探索研究活動に前臨床開発および臨床試験の準備費用を加えた340百万円を使用する見込み
	4Q	探索研究活動に前臨床開発および臨床試験の準備費用を加えた605百万円を使用する見込み

※本資料では開発候補化合物の前臨床試験以降を「開発」としています。研究開発費は研究開発部門の人員費等を含みます。

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

10

研究開発費の状況でございます。

この第2四半期では、研究費が2億2,600万円、これ以外に開発費として3,800万円を計上しております。臨床開発についてはまだ準備段階ですので、本格的に動き出す今年度の第4四半期から、あるいは来期にかけて開発費が増え、テゴプラザンの開発等に費やしていく予定でございます。現時点ではこうした形ではありますが、進捗に関しては比較的順調に動いているところでございます。特に今後ロックダウンの影響が出るという部分も、恐らくはテゴプラザン、グレリンに関してはないと見ておりますので、順調にプロジェクトを進めるように現在も取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

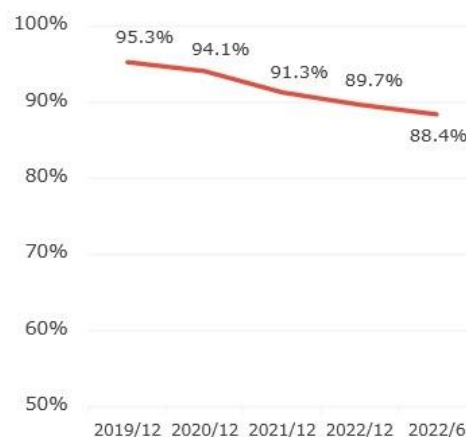
デット調達（リース等）により、自己資本比率88.4%（前期末比2.9%減）

- 資産：現預金の増加、研究機器の新規取得などにより、前期末比702百万円増（13.4%増）
- 負債：デット調達（リースなど）により、前期末比231百万円増（52.0%増）
- 純資産：純利益の計上などにより、前期末比470百万円増（9.8%減）

連結貸借対照表（対前期末比較）



自己資本比率



次が貸借対照表です。

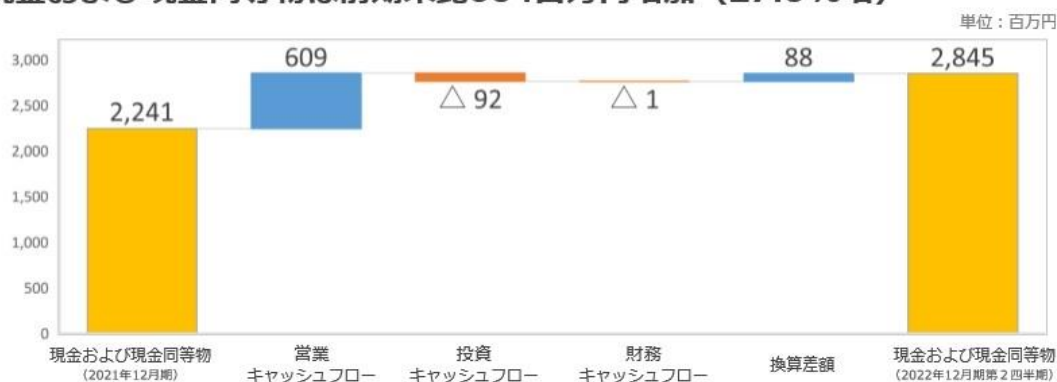
少し説明しますと、数字はこちらに書いているとおりです。少し自己資本比率が下がってきて、今期は88.4%になっているというところで、何人かの方にご質問をいただいたのですが、実際のところは、今回こちらに少し書いていますが、デット調達といっても実際にはリースですが、これまで装置類を一括で購入したりしていたものをリース契約で受けていただけるようになりました。

ですので、そのリース比率が増えたということで、いわゆるキャッシュアウトを押さえながら、いろいろなファイナンスをするという話を以前にさせていただいたのですが、ちょっと地味な形ではありますが、そうした形で一步一步積み上げて、財務状況の改善化、健全化というか、バランスを保つ方向で今は進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

現金および現金同等物は前期末比604百万円増加（27.0%増）



営業 キャッシュフロー	主な増加要因：税金等調整前四半期純利益676百万円、売上債権の減少380百万円 主な減少要因：前払費用の増加124百万円、法人税等の支払額122百万円
投資 キャッシュフロー	主な増加要因：投資有価証券の売却による収入315百万円 投資有価証券の償還による収入157百万円 主な減少要因：定期預金の預入による支出200百万円 投資有価証券の取得による支出351百万円
財務 キャッシュフロー	主な増加要因：長期借入れによる収入13百万円 主な減少要因：リース債務の返済による支出16百万円

続いて、第2四半期のキャッシュフローでございます。

昨年の年末ですが、これが22億4,100万円ございました。これに対して営業キャッシュフローが6億900万円、投資キャッシュフローと財務キャッシュフローを差し引きしまして、昨今の為替の動きもありまして、8,800万円ほどプラスになっておりますが、これらを勘案しまして、第2四半期の期末においては28億4,500万円という形で、手持ちキャッシュも増えている状況になっております。

主な要因はこちらに記載のとおりでございます。なるべく質疑応答に時間を割きたいので、こちらはお読みいただければと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

● 期首計画を据え置き

事業収益2,605百万円、事業費用2,184百万円、営業利益 420百万円



売上

1Qは、動物薬の販売ロイヤルティとマイルストーン収入を軸に339百万円を計上
 2Qは、テゴプラザン・動物薬の販売ロイヤルティとマイルストーン収入を軸に1,107百万円を計上
 3Qは、マイルストーンと販売ロイヤルティ等を軸に203百万円を見込む
 4Qは、マイルストーンと販売ロイヤルティ等を軸に956百万円を見込む

以上の結果、通期で2,605百万円を見込む

費用

1Qは、事業原価 53百万円、研究開発費用 263百万円、その他販売費一般管理費 142百万円を計上
 2Qは、事業原価 51百万円、研究開発費用 264百万円、その他販売費一般管理費 120百万円を計上
 3Qは、事業原価 47百万円、研究開発費用 341百万円、その他販売費一般管理費 154百万円を見込む
 4Qは、事業原価 52百万円、研究開発費用 474百万円、その他販売費一般管理費 198百万円を見込む

以上の結果、通期で2,184百万円を見込む

続いて、今期の見通しについてお話をさせていただきます。

今期の見通しは、先ほどの繰り返しになってしまいますが、期首の計画を現在、今年度に関しては据え置いております。

こちらに関しては、第1四半期は動物薬の販売ロイヤルティとマイルストーンを計上して3億3,900万円、これに対して第2四半期がテゴプラザンと動物薬の販売ロイヤルティ、あるいはその他マイルストーンで11億700万円を計上しております。

恐らくですが、費用的なところも見ていくと、現在は大幅な変更はないだろうと。為替による影響も多少あるはありますが、現在手持ちのキャッシュでいきますと、1円の変動について数百万円ぐらいの影響を受ける程度になっています。リスクヘッジ、為替のオプションとか、いろいろな金融商品を組み合わせる形で最低限押さえていますので、そうしたところが売上等にも少し影響していますが、為替の影響はなるべくニュートラルにできるように、いろいろな取り組みを今は行っているところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ただ、今年度に関しましては、中国のテゴプラザンの売上が得られる最初の年ということもありまして、まだレポートを待っているような状態でございます。こちらの状況を見ながら、上方修正が出るのか、ステイなのか、判明次第、皆さんにご報告させていただければと思っております。



ペット用医薬品の売上が堅調に推移

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

EP4拮抗薬 GALLIPRANT®



一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の変形性関節症
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国) (エランコ社)

- 日米欧ほかで販売中
- 2021年の売上高は1億米ドル(約125億円)¹⁾に到達
- 米国において二桁成長を維持。欧州では天候等の影響で足踏み

グレリン受容体作動薬 ENTYCE®/ELURA®



一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE®) 慢性腎疾患の猫の体重減少管理、猫の食欲不振 (ELURA®)
販売元	エランコ社

- ENTYCE® : 米国で販売中、売上は堅調に推移
- ELURA® : 米国で販売中、欧州で承認申請

1) エランコ社 2021年度決算発表 (2022年2月24日); 換算レート: 1米ドル=125円

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

16

続いて、トピックスということでお話をさせていただきます。

EP4、GALLIPRANT は、全体としては順調でございます。アメリカにおいては依然として二桁成長を維持している状況です。ただ、少し残念なことに、欧州では天候等の影響で若干足踏みの状態になっているということで報告を受けております。天候の不順ということなので、本質的に商品に何か影響があったということではございません。

世界各国で、コロナ禍になりましてペット数は全体に増えておりますので、恐らく中長期的、2020年代の半ばぐらいから、こうしたペットの高齢化も迎えて、われわれのお薬の対象になる、いわゆる患畜が増えてくると思います。ですので、マーケットとしてはグロースという言い方ができるかと思えます。そうした意味では、スポットでの影響はあるものの、長期的にはマーケットも増えるし、それなりの収益をもたらしてくれるとわれわれとしては期待しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



次に、グレリン受容体の作動薬、ENTYCE と ELURA ですが、こちらも販売は、アメリカは順調といえますが、堅調に伸びているというところではあります。

ELURA、猫のほうはアメリカで販売中で、欧州で現在承認申請を行っているところです。ペットも、猫はやはりかなり数が増えておりまして、アメリカでも頭数も増えておりますし、欧州でも同じ傾向だと聞いています。そうした意味では、そうした患者、あるいは飼い主の方々にも、こういう食欲不振とか体重管理のためのニーズは根強く今後も出てくると思いますので、マーケットシェアを伸ばしていけるのではないかと期待しております。



胃酸分泌抑制剤テゴプラザン

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB)



一般名	tegoprazan (テゴプラザン)
適応症	胃食道逆流症、消化性潰瘍ほか
販売元	HK inno.N Corporation (韓国) (HKイノエン社) Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co.,Ltd. (中国) (Luoxin社)
製品名	K-CAB® (韓国)、泰欣贊® (中国)



既存薬のプロトンポンプ阻害剤 (PPI) の課題を克服

速やかな効果の立ち上がり、効果の持続性、強力な胃酸分泌抑制能、低い薬物相互作用



韓国および中国で販売中、アメリカでの臨床開発進行中 その他32か国において販売準備中/審査中/申請準備中

びらん性胃食道逆流症 (GERD)、非びらん性胃食道逆流症 (NERD)、胃潰瘍 (GU)、ヘリコバクター・ピロリ (*H. pylori*) 除菌補助療法など

日本を除く地域における権利をHKイノエン社に許諾し、当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/売上に応じたロイヤルティを受け取る権利を保有

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

17

続いて、テゴプラザンです。

テゴプラザンに関しましては、何度か説明をいろいろな場でさせていただいたので、聞き飽きていらっしゃる方ももしかしたらいらっしゃるかもしれませんが、やはり最大の特徴は、既存のプロトンポンプ阻害剤に比べて速やかに立ち上がること、あと効果の持続性、それ以外に強力な胃酸分泌抑制と低い薬物相互作用があること、こうした点が大きな差別化ポイントになっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



現在、日本では武田薬品様が販売されているボノプラザンが順調にマーケットを伸ばしておりますが、それに続く形で、われわれも日本でもお届けしたいと考えております。

韓国および中国で販売中という話をさせていただきましたが、この他にアメリカでも現在、臨床開発が進められている状況でございます。こちらはどんな状況かといいますと、現在、Braintree様、これはアメリカの開発のパートナー様でいらっしゃいますが、そちらがFDAと相談しながら、なるべく臨床試験のステップを省略できるような形で、簡単に言うと、期間と費用を圧縮できるような形で臨床開発できないかということで、折衝を進められていると聞いております。

簡単に言うと、フェーズ2をスキップできるのではないかという話で、いろいろと相談されているみたいですが、恐らくそういうのができますと、われわれが今取り込もうとしている日本でのテゴプラザンの開発にも影響があります。それはどういう影響かという、やはり同じく期間、費用を圧縮する、要は海外データを使った、積極的に活用した形で、少しでも早く日本の患者様にお届けできる臨床試験のデザインができるのではないかと考えておりました、われわれとしてもアメリカの開発動向は非常に注目しているところでございます。

また、こちらは積極的に情報を今集めておりますので、また皆様に開示できる情報が出たら適時にお知らせさせていただこうと思っています。

この他、32カ国において、販売準備中/審査中/申請準備中となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

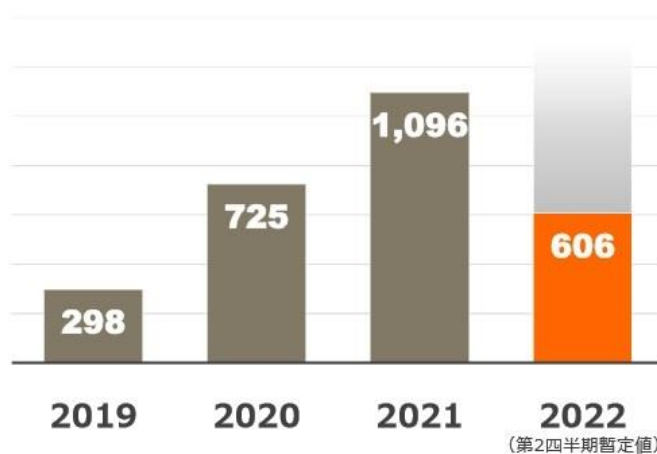


K-CAB®の韓国販売は第1四半期に引き続き好調に推移

- 当第2四半期累計の韓国国内売上高※1 606億ウォン（約60億円）
- 口腔内崩壊錠が発売
- 5つ目の適応症承認（びらん性胃食道逆流症治療後の維持療法）

「K-CAB®」の韓国売上高の推移

（単位：億ウォン）



前年同期比
21.1%増

※1：院外処方データ（UBIST）
換算レート：1韓国ウォン=0.10円

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

18

韓国の売上は、繰り返しになって恐縮ですが、まだ暫定の数字ではありますが、こんな形で第2四半期だけで606億ウォン、対前年比の21.1%増で、堅調に伸びております。

ここにあるように口腔内崩壊錠も販売されましたし、五つ目の適応症が承認されました。びらん性胃食道逆流症治療の治療後の維持療法の承認とありますが、治療後の状態を維持するための服用ということで、患者数もそれなりにおられますし、結構長い期間になりますので、売上増につながるファクターになるのではないかと期待しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(中国)

2022年4月 びらん性胃食道逆流症治療薬として承認

- 革新的な医薬品を表す「分類1」での承認を取得
- 主要病院・小売薬局・インターネットで販売中
- 2023年の保険収載を目指した取り組みが進行中
- 2022年7月 *H. pylori*除菌補助療法の第Ⅲ相臨床試験が開始



写真：泰欣贊®製品パッケージ (Luoxin社提供)

Luoxin社の売上目標

2023年 10億元 (約196億円)

中長期 30億元 (約588億円)

**当社は売上に応じたロイヤルティをHKイノエン社を介して受け取る
当社収益への計上はHKイノエン社収益の確定を受けて行う**

換算レート：1中国元=19.6円

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

19

中国での販売状況です。

これは4月に分類1、いわゆる画期的な新薬として承認されました。現在、日本と中国は若干医療制度が違ってしまっていて、実は最初から保険収載という形ではありません。中国に関しては、最初は自由薬価でやりまして、その後、保険収載がされるという形を取っております。

現在、主要病院とか小売薬局、インターネットで販売しておりますが、目標としては23年の保険収載を目指しているとのことで、現在はLuoxin様が積極的に販売して、なるべくスタートダッシュでしっかりとマーケットシェアを取りに行こうとしていると聞いております。

具体的な売上目標としては、23年には10億元で、日本円にして大体200億円近くの売上を立てることを目指しておられます。中長期的には30億元といますから、大体その3倍、大体600億円をちょっと欠けるぐらいですけど、そうした売上を目指しているということで、やはりかなり大型の商品として期待されていることが分かるかと思えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

また、この7月にはピロリ菌の除去の補助療法の第III相臨床試験が開始されました。やはりピロリのニーズは中国でもかなりあると聞いておりまして、こうした点が、フェーズ3が進んで承認されていければ、こうした患者さんも取り込めることとなります。

注目すべきは、とにかく適応症を早く取れるところから少しでも早く取って売上を上げるというのがLuoxinさんの戦略のようでして、これは多分われわれにとっても参考になるやり方かと思っています。これはテゴプラザン限らず、いろいろな疾患でもそうですけれど、ベンチャーらしく、1日でも1秒でも早く患者様にお薬を届けるという戦略の参考にしたいと考えております。



テゴプラザン：世界各国での主な進捗

決算説明会

2022年12月期 第2四半期



(米国)

HKイノエン社が第I相臨床試験を完了(2022年4月)

- Braintree Laboratories (ブレインツリー社) は年内の臨床試験開始を目指して米国FDAと治験前相談を実施
- 米国の消化性潰瘍薬市場：約4,000億円



(インド)

インドを含む7か国へのサブライセンス(2022年5月)

- Dr. Reddy's Laboratories (本社：インド・ハイデラバード)
- 対象地域：アジア、東欧およびアフリカに所在する7か国



(フィリピン)

フィリピンにおける販売承認(2022年5月)

- Metro Pharma Phils. (本社：フィリピン・マニラ)
- びらん性胃食道逆流症をはじめとする4つの適応症
- 東南アジアの消化性潰瘍薬市場：約460億円

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

20

各国の状況を少しお話しさせていただきます。

重複する部分もありますが、アメリカでは Braintree が年内の臨床試験開始に向けて、現在 FDA と話を進められている状況です。フェーズ2をスキップする形で取り組まれているとは聞いていますが、まだ細かい報告は受けていませんので、固まりましたら、この辺りは皆さんに報告させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



マーケットサイズについて時折質問をいただきます。アメリカに関しては、現在、大体年間 4,000 億のマーケットがあるとされております。マーケットサイズの、仮に 30%とか、そういうのを取るだけでもかなり大きな売上が期待されますので、われわれとしてもアメリカマーケットはやはり注目、今後の成長、グロースファクターとして期待しております。

インドです。これは今年の 5 月に締結をしました。Dr. Reddy's Laboratories は、インドでは消化器関連では大手さんでいらっしゃるしまして、現在 PPI を販売なさっているのですが、この PPI、こちらにモデルチェンジする、いわゆる切り替えるためのもので採用されたと聞いております。

対象地域はアジア、東欧およびアフリカで、こちらの 7 カ国です。実はこういった地域は、日本の製薬会社はダイレクトにローンチしづらい地域でございます。インドはだいぶ頑張っている部分がありますが、それでもなかなか苦戦している地域でもありますので、そうしたところが、地元の大手さんが取り組んでくださっているというのは大変心強い話だと思っております。

この他、フィリピンにおいては販売承認ということで、今年の 5 月ですね。こちらに関しては、びらん性胃食道逆流症をはじめとする四つの適応症で販売承認を得ております。マーケットサイズですが、こちらは東南アジア全般になりますが、これが大体 460 億円で、当然アメリカとか中国に比べればスモールサイズには見られがちですが、それでもやはりわれわれのミッションとしては、世界の患者様にお薬を届けることですので、こうした地域の患者様に届けられるというのは大変うれしいことだと考えております。当然ながら収益も積み重ねが大事ですので、そこにも貢献してもらえということで、大変心強く思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



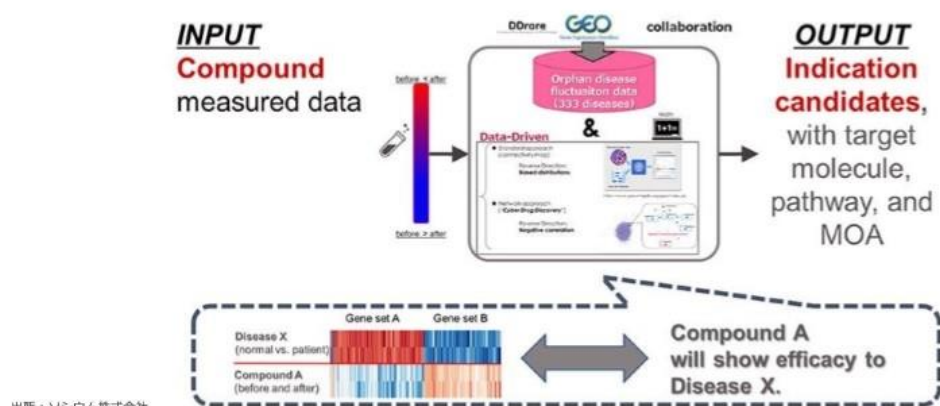
当社の化合物の難病・希少疾患への適応可能性を探索



名称 ソシウム株式会社
 代表者 代表取締役CEO 川井洋
 創業年月 2017年9月
 HP <https://socium.co.jp/ja/>

保有技術

独自の難病・希少疾患データベースとAI創薬プラットフォーム
 遺伝子発現変動パターンに基づいて適応疾患・化合物を探索する技術



Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

21

新たな取り組みとして、二つご紹介させていただきます。

まず一つがAIの活用ということで、ソシウム株式会社様と共同研究を始めました。こちらはどんな取り組みかといいますと、化合物がどれかはお話しできないのですが、こちらの化合物をもとに、例えばどんな適応症が考えられるか、こうした中で特に難病、希少疾患、こうしたものの適応の可能性がないか、こうしたものをAIで可能性を模索しようと考えております。

同社の技術はもともと産総研の技術で、堀本先生という方が、遺伝子とか分子情報をもとにいろいろなAIのプログラムを組んで、その化合物はこうした可能性がある、そうしたことをやってくれるAIです。人で専門的にやるという強さも必要だと思いますが、AIだと、われわれが今まで実は専門としては若干弱かった領域、特に希少疾患、遺伝性疾患とか、なかなか情報が少ないものもありますので、ある程度論文を機械で網羅的に探してやるとか、あるいは遺伝子情報とか、そういったものを組み合わせてやるという効率性がどうしても求められる領域になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

これを自社で内製化することができれば理想だとは思いますが、さまざまな技術がありますので、まずは外部のパートナーを探そうということで、そのうちの一社として、最初にソシウムさんをお願いしたというのがいきさつになります。

よく希少性の疾患とか難病は、マーケットサイズが大きくないのではないかと、研究しても大変ではないかと、いろいろご指摘をいただきます。実際はそんなことはなくて、まだまだマーケットサイズがないために大手さんが取り組まないということで、治療法がなかなか届けられていない疾患もかなりございます。

日本では厚生労働省が、希少疾患の認定をして、さまざまな難病の治療薬をやはり国としても支援していこうと。これは日本だけでなく各国でもそうですが、国としても政策的に保護したり、支援したりということがありますので、ある程度スピーディーにお薬が届けられます。

大手と違って、われわれはそこまで大きな会社ではございませんので、希少疾患でも十分われわれとしては理にかなう採算が取れるのではないかと、こうした想定のもと、新しいテーマとして、こうした難病、希少疾患への取り組みを進めているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



新株予約権の引き受けによる資本提携

イオンチャネルを標的として難病・希少疾患治療薬の創製を目指す

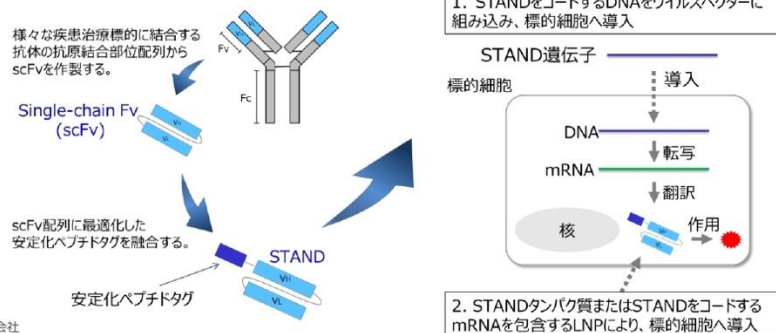


名称 STAND Therapeutics株式会社
 代表者 代表取締役CEO&CTO 樺山博之
 創業年月 2019年11月
 HP <https://www.stand-therapeutics.com/>

保有技術

抗体 (scFv) に安定化ペプチドタグを融合して抗体を安定化
 細胞内環境における凝集を防止し細胞内の標的分子にアプローチ可能

【細胞内抗体作成技術 (STAND技術)】



出所：STAND Therapeutics株式会社

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

22

もう一つ、これはもう私が就任してからずっとお話をさせていただいていますが、新しいモダリティに関する取り組みということで、今般、STAND Therapeutics 様と共同研究および資本提携をさせていただきました。

こちらの STAND 社は、もともとは理研におられた樺山先生が立ち上げられたベンチャーでして、細胞内抗体といわれている、独自の技術をお持ちになった会社でして、こちらと一緒に、神経変性疾患に対する新しい取り組みとして共同研究を行っているところです。

少し簡単に技術の概要をお話しさせていただきますと、いわゆる抗体は、普通は細胞の中ではなくて、細胞外で働くというのがメインになっております。細胞の中でもという取り組みで本当にいろいろな研究がされているのですが、細胞の中に入りますと抗体は凝集して効果を発揮しないことが知られています。

それを避けるためにいろいろな改変をすると、今度は多様性がなくなってしまうので結局効かないとか、さまざまな課題があるのですが、そうした課題に対する回答として、一つ、抗体に安定化のペプチドタグを融合しまして、これで細胞の中でも抗体を安定化させて、細胞の中での凝集を防ぐことで薬効を示していくという新しいタイプのアプローチになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

正直言いますと、これらはいろいろな技術を探した中で、まだまだアーリーのものでございますので、様々な検証をやっていかなければいけないです。やはりわれわれとしてはイオンチャネルのノウハウを提供しつつ、こうした技術を活用することで、イオンチャネル創薬の会社として、低分子だけではなくて、いろいろなモダリティで最適なものを選んでいくというのが戦略の一つになると思います。そうした意味で、まずはフィジビリティ・スタディから始めて、しっかりと育てていこうと、このように考えて、今回、資本提携と共同研究を行っております。

ターゲットに関しては、ここに書いていないですが、当社がこれまでイオンチャネルに取り組んできたのですが、どちらかというといオンチャネルの中でも痛みとかに関連するものを中心に進めておりましたが、今回のターゲットはそうした疾患ではなくて、イオンチャネルではありますが、遺伝性の疾患をターゲットにしていますので、割と新しい取り組みになります。ですから、われわれとしてもここはじっくりと育てていきたいと考えているところです。技術の詳細は、STAND様のホームページをご覧くださいいただければと思います。



決算説明会

TM-411

2022年12月期 第2四半期

タミバロテン (TM-411/SY-1425)

- レチノイン酸受容体の α サブタイプ (RAR α) 選択的作動薬。強い分化誘導活性を示す
- 他の抗腫瘍剤との併用による相乗効果が期待できる

Syros Pharmaceuticals (シロス社) における開発状況

適応症	開発段階	オーファンドラッグ指定 (※1) の状況	今後の見通し
骨髄異形成症候群 (MDS)	フェーズ 3 (米国) (SELECT-MDS-1)	米国：指定済み 欧州：肯定的意見	2024年1Qに結果発表 2024年に承認申請
急性骨髄性白血病 (AML)	フェーズ 2 (米国) (SELECT-AML-1)	米国：指定済み 欧州：指定済み	2022年中に 結果の一部を発表

がん幹細胞の増殖抑制剤の欧州における特許査定 (2022年7月)

- 欧州特許出願番号：15796913.0
- 産業技術総合研究所とテムリックの間で行われた共同研究成果に基づく発明

※1：オーファンドラッグ指定：生命に大きな影響を与える稀な疾病の治療薬開発を支援する制度。指定をうけた薬剤は、販売開始後一定期間の市場独占性や臨床開発段階における優先審査や費用減免等の様々なメリットを得ることができる

次はタミバロテンです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



こちらは、現在アメリカではパートナーの Syros 様が臨床開発を行っております。

基本的なお薬の作用としましては、レチノイン酸受容体に対する選択的な作動薬ということで、強い分化誘導活性を示すものです。これ自体単剤で効かせるものではなくて、昨今の抗がん剤が一般的にそうですが、他の抗がん剤と組み合わせて多剤併用療法を狙うのですが、タミバロテンもそうしたお薬の一つです。特徴としては、相乗効果が期待できます。要は、他のお薬の薬効にブーストをかけるという位置付けのお薬になります。

適応症としては骨髄異形成症候群、こちらが現在フェーズ3をアメリカで行っている状況です。オーファンドラッグの指定は、アメリカでは指定済みで、欧州に関しては肯定的な意見を得ているところです。

今後の見通しですが、2024年第1四半期に結果発表を目指して、今のところ臨床開発が進められており、2024年中に承認申請を行いたいという考えで、Syros 様が今、臨床開発を進めておられます。特に現時点では遅れになるような要因はないと聞いておりますので、まずまずオンタイムで進んでいると思っていただいて結構です。

あともう一つ、急性骨髄性白血病、AMLといわれるものですが、こちらに対する治療薬として、フェーズ2が今アメリカで行われております。こちらに関しては、アメリカ、ヨーロッパ、両方ともオーファン指定を得ている状況でございます。

今後の見通しですが、今年度中に結果の一部を発表する予定でございます。こちらはいつになるかという、まだ詳細な報告は聞いていないですが、恐らくクリスマス前には皆さんに何らかの形で報告できるのではないかと考えております。いずれにしても Syros さんの発表待ちですので、届き次第、速やかに報告させていただきます。

あとは、がん幹細胞の増殖抑制剤のヨーロッパにおける特許査定を今年の7月に取ることができました。こちらは、実は産総研様とテムリックとの間で行った共同研究の成果でございます、われわれとしても一つ特許化できたということで、大変喜んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて簡易的疾患ごとによって表示しています。
注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。
詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.co.jp/>) の「開発情報」にてご確認ください。

パイプラインの状況です。

開発パイプラインはこちらに挙げているとおり、導出済みのものが上、導出準備、これからライセンスしようというものがこちらになります。全項目を挙げると大変ですので、次のページ以降でダイジェスト、トピックスだけをお話しさせていただきます。

その前に、当社はパイプラインが比較的潤沢にあるバイオベンチャーでございますので、どの疾患がどれだけマーケットサイズがあるのかということをよく質問されますので、今年からこういったものを少し入れさせていただきました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



主な標的疾患の潜在市場規模

決算説明会

RaQualia
innovators for life

2022年12月期 第2四半期

疾患名	患者数	市場規模 (地域)	既存薬	当社開発パイプライン
胃食道逆流症 ^{1,2)}	5,800万人 (米国) 1,700万人 (日本)	2兆円 (全世界) 4,000億円 (米国) 2,500億円 (日本)	H2RA、PPI、 ポノプラザン	テゴプラザン
疼痛 ^{3,4)}	5,000万人 (米国) 2,300万人 (日本)	2兆円 (全世界) 3,000億円 (日本)	プレガバリン、 デュロキセチン、 セレコキシブほか	EP4拮抗薬、COX2阻害薬、 TRPM8遮断薬、 P2X7受容体拮抗薬、 ナトリウムチャンネル遮断薬
がん免疫 ^{5,6)}	がん患者の約12%が がん免疫療法に応答	10兆円 (全世界)	ニボルマブ、 ペムブロリズマブほか	EP4拮抗薬
慢性便秘 ^{3,4)}	4,200万人 (米国)	6,600億円 (全世界) 600億円 (日本)	リナクロチド、 ルビプロストンほか	5-HT ₄ 部分作動薬
胃不全麻痺 ^{7,8)}	8-40万人 (米国)	2,000億円 (全世界)	メトクロプラミド ほか	5-HT ₄ 部分作動薬 モチリン受容体作動薬
過敏性腸症候群 ^{9,10,11)}	日本・西洋の成人の 5-20%	1,000億円 (全世界)	リファキシミン、 ラモセトロンほか	5-HT _{2B} 拮抗薬
がん悪液質 ¹²⁾	がん患者の20%以上 が悪液質を発症	2,000億円 (全世界)	アナモレリン	グレリン受容体作動薬
脊髄損傷に伴う便秘 ¹³⁾	30万人 (全世界)	>200億円 (全世界)	便秘薬	グレリン受容体作動薬
骨髄異形成症候群 ¹⁴⁾	6-17万人 (米国)	1,000億円 (全世界)	アザシチジンほか	タミバロテン
急性骨髄性白血病 ^{15,16)}	16万人 (全世界) 7,000人 (日本)	1,000億円 (全世界)	アザシチジン、 ベネトクラクスほか	タミバロテン

以下の資料に基づき当社で推計：1) HKインエン社資料；2) Sci. Rep. 10:5814 (2020)；3) 日経/イオ年鑑2021 (2020)；4) 日経/イオ年鑑2022 (2021)；5) Cancer Immunotherapy Market: Global Industry Trends, Share, Size, Growth, Opportunity and Forecast 2022-2027 (2022)；6) JAMA Network Open. 2(5):e192535 (2019)；7) Gut 68(12): 2238-2250 (2019)；8) Diabetic Gastroparesis Treatment Market: Global Industry Analysis and Forecast, 2016 - 2024 (2020)；9) Adv. Ther. 37:83-96 (2020)；10) Market Spotlight: Irritable Bowel Syndrome IBS (2021)；11) J. Clin. Gastroenterol. 54(1): 50-54 (2020)；12) Global Cancer Cachexia Market Report 2021 (2022)；13) World Health Organization；14) MDS Foundation (<https://www.mds-foundation.org/what-is-mds/>)；15) Acute Myeloid Leukemia Market - Growth, Trends, COVID-19 Impact, and Forecasts (2022 - 2027) (2022)；16) アッヴィ合同会社プレスリリース (2020/6/24)

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

26

どのように取るかというのにはありますが、症状に対して患者数と市場規模ということで、一例を挙げますと、テゴプラザンのターゲットとして、胃食道逆流症がありますが、患者数としてはアメリカでは5,800万人、日本では1,700万人がいるといわれています。現在の市場規模は、グローバルでは2兆円の売上規模に対して、アメリカでは4,000億円、日本では2,500億円の市場規模があるとされています。

このような形で、実はどの会社もやっているのですが、こうした患者数と市場サイズがあるということで一覧にまとめましたので、ご参考いただければと思います。

特徴的な点としましては、とにかく割と売上がしっかりある領域にこれまでは参入してきているということが、一つ大きなポイントです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



- **テゴプラザン**：韓国・中国で販売中。インドを含む7か国へのサブライセンスにより、30を超える国に進出。米国ではブレインツリー社が新たな臨床試験を年内に開始予定
- **EP4拮抗薬**：AskAt社の導出先であるIkena Oncology社が臨床試験を実施中

プロジェクト名	導出先	主適応症	実施地域	臨床開発						
				探索	前臨床	P1	P2	P3	承認申請	承認
テゴプラザン (カリウムイオン競合型アシッドプロテアーゼ阻害剤) (P-CAB) K-CAB®)	HKイノエン社 (韓国)	胃食道逆流症	韓国	販売中 (2019年3月上市)						
			中国	販売中 (2022年4月上市)						
			モンゴル、フィリピン							承認取得
			米国			終了				
			タイ、メキシコ、ベトナム、インドネシア、シンガポール							審査中
			インドほか25か国							準備中
			米国					前期終了		
EP4拮抗薬	(株)AskAt	疼痛	米国							
			中国			終了				
			米国			実施中				
			中国			実施中				
		変形性関節症、自己免疫疾患、他	—			終了				

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

27

導出済みのプログラムに関してです。

これは先ほどの繰り返しになりますが、テゴプラザンは韓国、中国で販売中、インドを含む7か国、これはサブライセンスをしたこと、アメリカにおいては Braintree 様が新しく臨床試験を年内にスタートさせる方向で今取り組んでいるということになります。

EP4 拮抗薬、これは AskAt 様にライセンスしているのですが、サブライセンス先になります Ikena Oncology 様のほうで今、臨床試験が進められている状況でございます。こちらオントタイムで進んでいるとは聞いておりますけれど、引き続き、いつ頃に終わるかとか、情報は少しでもわれわれは早く欲しいと思っていますので、コミュニケーションを取りながら、終わるよという報告が出たら、速やかに皆様にお知らせさせていただこうと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

- **CB2作動薬**：AskAt社の導出先であるOCT社（英国）が前臨床試験を実施中
- **選択的ナトリウムチャンネル遮断薬**：マルホ社にて引き続き開発中
- **P2X7受容体拮抗薬**：Eli Lilly 社（米国）が第Ⅱ相臨床試験以降を準備中
- **特定のイオンチャンネル**：EAファーマ社にて引き続き開発中
- **TRPM8遮断薬**：Xgene社（香港）が前臨床試験を開始
- **ナトリウムチャンネル遮断薬**：久光製薬社が前臨床試験を準備中

プロジェクト名	導出先	主適応症	実施地域	臨床開発							
				探索	前臨床	P1	P2	P3	承認申請	承認	販売
5-HT ₄ 部分作動薬	(株)AskAt	アルツハイマー病	米国			終了					
COX-2阻害薬	(株)AskAt	疼痛	米国				前期終了				
			中国			実施中					
CB2作動薬	(株)AskAt	過敏性腸症候群に伴う疼痛	—		実施中						
選択的ナトリウムチャンネル遮断薬	マルホ(株)	鎮痛・鎮痒	—	非開示							
P2X7受容体拮抗薬	旭化成ファーマ(株)/Eli Lilly and Company	神経障害性疼痛	—			終了					
特定のイオンチャンネル	EAファーマ(株)	消化器領域	—	非開示							
TRPM8遮断薬	Xgene Pharmaceutical	慢性疼痛	—		実施中						
ナトリウムチャンネル遮断薬	久光製薬(株)	慢性疼痛	—		準備中						

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

28

続いて、2 ページ目です。

CB2 作動薬、これは AskAt 様がライセンスした OCT、これはイギリスのベンチャーさんになりますが、こちらで現在、前臨床試験が実施中です。

この他、選択的ナトリウムチャンネル遮断薬は、マルホ様で引き続き開発中です。

P2X7 受容体拮抗薬、これは旭化成ファーマ様と共同研究をやって、旭化成ファーマ様にライセンスして、旭化成ファーマ様が Eli Lilly 様にサブライセンスをしたものになりますが、現在、第Ⅱ相臨床試験以降を行うために、Eli Lilly 様のほうで準備がなされていると聞いております。

昨年の第1四半期に旭化成ファーマ様から Eli Lilly にライセンスをしたのですが、一般的にいくと、そう遠くないうちに、恐らく次のフェーズ、臨床試験が始まるのではないかと期待しております。1日でも早く皆様にその報告ができるように情報収集をしているところです。

特定のイオンチャンネル、これは EA ファーマ様が引き続き開発中です。契約上、フルに非開示になってしまっていますが、オンタイムで進んでいると報告を受けております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

昨年ライセンスした TRPM8 遮断薬、こちらは Xgene 様のほうで前臨床試験を開始されました。こちらにも順調に取り組みをなされておられるということで、われわれとしても、定期的にディスカッションをしながら協力をしているところでございます。

ナトリウムチャンネル遮断薬、これは昨年年末に久光様にライセンスしたものになりますが、前臨床試験を準備中ということで、こちらにも定期的にミーティングを行いながら、われわれも協力できることは協力しながら進めているところでございます。

導出済みプログラム (ペット)

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

- **GALLIPRANT®** : 日米欧ほかで販売中。販売は順調に推移
- **ENTYCE®** : 米国で販売中。販売は順調に推移
- **ELURA®** : ENTYCE®と同一成分の猫用医薬品として米国で販売中。欧州で審査中
- **COX-2阻害薬** : 2022年7月、導出先のAskAt社から米国のVelo-1, Inc.にサブライセンス

プロジェクト名	導出先	主適応症	実施地域	パイロット試験	ピボタル試験	承認申請	承認	販売
EP4拮抗薬 GALLIPRANT®	エランコ社 (米国)	変形性関節症 (犬)	米国	販売中 (2017年1月上市)				
			欧州	販売中 (2019年3月上市)				
			日本	販売中 (2020年10月上市)				
グレリン受容体作動薬 ENTYCE®	エランコ社 (米国)	食欲不振 (犬)	米国	販売中 (2017年10月上市)				
グレリン受容体作動薬 ELURA®	エランコ社 (米国)	慢性腎疾患の 体重減少管理 (猫)	米国	販売中 (2021年3月上市)				
			欧州			審査中		
COX-2阻害薬	(株)AskAt	疼痛	—	準備中				

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

29

ペットです。

こちらのトピックス、実はこれまで上がっていなかった COX-2 阻害薬、こちらで、2022 年 7 月、導出先の AskAt 様が、アメリカの Velo-1 という会社、もともとはこの会社は、Ikena Oncology とかがやっている、いわゆるファイナンス系のバイオ投資をする会社さんが中心になってつくった会社でして、こちらの Velo-1 は、そこのピークルの一つです。

こちらのピークルには、Aratana Therapeutics、現在、エランコ様になっていますが、われわれが最初にライセンスした動物薬の会社のファウンダーが参画されているということで、われわれとし

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



では今後しっかり成長させていただけるのではないかと非常に期待も寄せておりますし、AskAt様からもそのような報告を受けているということで、新しいトピックスとしてお話しさせていただきました。

- **テゴプラザン**：臨床開発に向けてPMDAとのやり取りと提携先候補企業との協議を実施
- **グレリン受容体作動薬**：外部委託による前臨床試験を実施中
- **5-HT₄部分作動薬、5-HT_{2B}拮抗薬、モチリン受容体作動薬**：導出活動を継続中

プロジェクト名	一般名 化合物コード	主適応症	対象 地域	臨床開発							
				探索	前臨床	P1	P2	P3	承認 申請	承認	販売
カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB)	tegoprazan RQ-00000004	胃食道逆流症	日本			準備中					
5-HT ₄ 部分作動薬	RQ-00000010	胃不全麻痺 機能的胃腸症 慢性便秘	全世界			終了					
5-HT _{2B} 拮抗薬	RQ-00310941	下痢型過敏性腸症候群 (IBS-D)	全世界			終了					
モチリン受容体作動薬	RQ-00201894	胃不全麻痺 機能的胃腸症 術後イレウス	全世界		終了						
グレリン受容体作動薬	RQ-00433412	がんに伴う食欲不振・悪液質症候群、脊髄損傷に伴う便秘	全世界		実施中						
TRPM8遮断薬	RQ-00434739	疼痛	日本		検討中						

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

30

次は導出準備です。

こちらに関しては、なかなかステップアップが見えていない状況になりますが、中身はそれなりにいろいろと動いております。まず一つ、テゴプラザンは、日本での臨床開発に向けて PMDA との面談を1回行いました。それを踏まえて、アメリカ等の開発状況のフィードバックも受けながら、日本で、よりスピーディーに、1日でも早く患者様にお届けできるような試験デザインをしようということで取り組んでおります。

この他、当然パートナー企業様も必要になってまいります。現在、パートナー候補の方々、もちろん前の経営陣の時代にも当たってございましたし、本当にいろいろな取り組みをしてきたのですが、こうした最新の状況を踏まえて、新しい臨床開発をこうすることでやりませんかという提案を含め

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

て、現在コンタクトをしている状況でございます。こちらについては、またあらためて進捗があればお伝えさせていただこうと思います。

あとはグレリン受容体作動薬、これは外部委託によって現在、前臨床試験を進めております。こちらにも順調に進んでおりますので、終わりましたら、次にこういうことやりますというのをお話しさせていただこうと思います。

この他の 5-HT₄ 部分作動薬、5-HT_{2B} 拮抗薬、モチリン受容体作動薬、こちらは昨年もちょっといろいろとコンタクトしたのですが、まだ契約締結には至っておりません。一方で、実は興味があるという会社様は何社かいらっしゃいますので、そうした会社様に、ある程度、最初の利益のところはさておき、1日でも早くライセンスをして、患者様にお届けできるような体制にするのがいいだろうということで、今までにない形の枠組みも含めて、現在お話をしている状況でございます。こちらにも確定したら、あらためて報告させていただこうと思います。

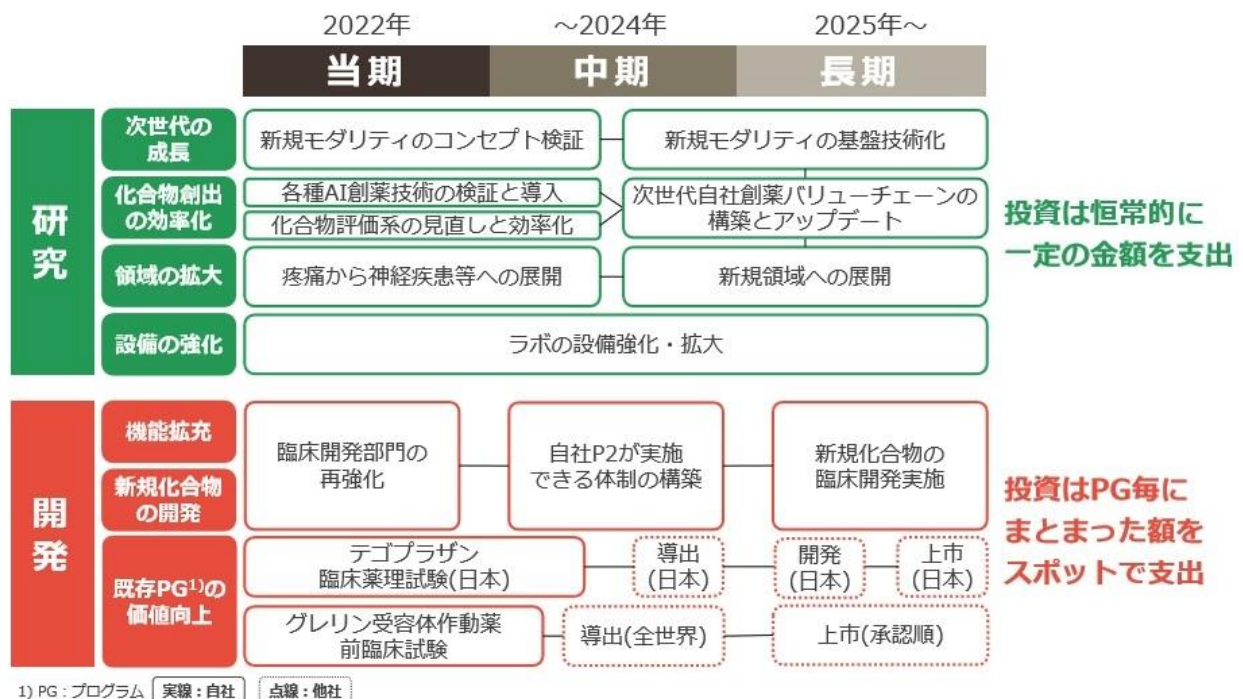


中長期の投資戦略の概要

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

恒常的に新薬を創出できる体制構築を目指す



Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

32

事業計画です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



こちらは中長期の投資戦略ということで、以前からお話しさせていただいていますが、こちらには変更は全くございません。こうした枠組みの中で、それぞれ今年の目標をチームの中で進めている状況でして、特にディレイとなっているものはありません。

こうした中で、先ほどもお話ししましたソシウムさんとか、STAND Therapeutics 様とか、そうしたところは、こういった位置付けで、AI 創薬技術の検証と導入とか、新しいモダリティのコンセプト検証ということで、書いていることが着実に進んでいる状況でございます。

あと、研究だけではなくて、開発もテゴプラザン、グレリンということで、取り組みが今進んでいるところまで、基本的にはこの仕組みの中でプロジェクトを進めている状況になります。



今期の業績予想および今後の業績目標

決算説明会

2022年12月期 第2四半期

2022年12月期は**事業収益2,605百万円**を見込む

2022年から2023年にかけては、2つのプログラムで**自社開発を進めるため事業費用が増加**するが、安定的な事業収益の確保により**3期連続の営業黒字**を見込む

単位：百万円

	実績		計画		目標	
	2021年 12月期	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期
事業収益	2,776	2,605	3,069	3,645		
事業費用	2,068	2,184	2,675	2,478		
営業利益	707	420	393	1,167		
経常利益	863	420	403	1,174		
親会社株主に 帰属する 当期純利益	755	342	327	970		
為替想定 (米ドル/日本円)	110.00	120.00 (上半期) 125.00 (下半期)	125.00	125.00		

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

33

この中期経営計画上の業績目標について少しお話をさせていただこうと思うのですが、この数字だけを見ても分からないと思いますので、後段でお話をさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





見直し前後の差異に関するご説明

決算説明会

RaQualia
innovators for life

2022年12月期 第2四半期

単位：百万円

見直し後 2022年8月15日	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2022年度通期 (計画)	2,605	2,184	420	420	342
2023年度通期 (目標)	3,069	2,675	393	403	327
2024年度通期 (目標)	3,645	2,478	1,167	1,174	970
見直し前 2022年2月14日公表	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2022年度通期 (計画)	2,605	2,184	420	420	342
2023年度通期 (目標)	2,926	2,607	318	313	206
2024年度通期 (目標)	3,362	2,475	886	874	678

2022年

変更なし

2023年

事業収益が前回発表比143百万円 (同4.9%) の増加。ロイヤルティ収入およびマイルストーン収入の伸長を見込む。事業費用は前回発表比68百万円 (同2.6%) の増加。営業利益および経常利益は、それぞれ、前回発表比74百万円 (同23.5%) および同89百万円 (同28.6%) の増加

2024年

事業収益が前回発表比283百万円 (同8.4%) の増加。事業費用は前回発表表から微増。営業利益および経常利益は、それぞれ、前回発表比280百万円 (同31.7%) および同300百万円 (同34.3%) の増加

Copyright 2022 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved.

35

期初に発表させていただいた数字は、こちらの下のようになります。

23年度に関しては、もともとは29億2,600万円という収益計画を立てていましたが、こちらはLuoxin様がテゴプラザンの中国で、こういう売上を目指していくんだよと目標を掲げられまして、実はそれが、われわれが当初考えていた計画よりかなり上振れした数字でした。そちらをもとに、どれくらいわれわれの収益に還元されるかということ踏まえまして再計算したのが、この修正した数値になりまして、結果として30億6,900万円ということで、今、収益計画を見直したところなんです。

同じ事情で、2024年度には期首が33億6,200万円だったのが36億4,500万円ということで、それぞれ年度が上振れという形で見直しを立てました。

当然ながら、こちらは為替とかもあるので、まだまだ確定できるところではありませんけれど、恐らくはそんなに外れないで推移していくのではないかと考えております。

それでは、中国の売上が期待できるのに、なぜ今年度が反映していないんだというところがございます。やはり販売初年として、長期処方ができないとか、いろいろな事情があるのですが、実はあ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



る程度、既に織り込んでいるので、そこからいくと実は誤差の範囲で、業績予想修正の基準を超えての売上増にはならないだろうということで、そこは少し保守的に見て目標値を変えていないということになります。

ただ、今、報告を聞いている限りは、やはりライセンスをした以上は少しでも売上を伸ばしたいということで、Luoxin 様もお考えのようでして、販売はかなり力を入れているので、もしかしたらわれわれの期待以上の売上があるのではないかと、ひそかに期待はしているのですが、少なくとも現時点では変更に至るまでの確証がないということで、このような形になっています。

費用などに関しては、23 年が 26 億 700 万円だったのが 26 億 7,500 万円ということで、少し上振れをしております。これは、やはり開発や研究を少し増やしたような形とか、もろもろの諸費用を直近の状況を見て試算した結果が少し増えているというところですが、収益を上回るような増ではありませんので、引き続き黒字化を目指していけるという考えです。

24 年に関しても、期初が 24 億 7,500 万円に対して 24 億 7,800 万円ということで、こちらはそんなに大きな変動はございません。ただ、今後の為替とか、あるいは開発計画でもう少し増えるとか、いろいろな形で恐らく 3 年はまた違う風景になっているかもしれませんが、この辺は順次こういってこういう費用ですというのはしっかりとお知らせさせていただこうと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





2022年

テゴプラザンおよび動物薬の売上拡大により販売ロイヤルティで1,554百万円を見込む
その他、テゴプラザンの中国での上市によるマイルストーン受領等で1,051百万円を見込む

2023年

テゴプラザンを中心に上市品が堅調に伸び、販売ロイヤルティ1,855百万円を見込む
その他、導出済みプログラムのマイルストーンや契約一時金等で1,214百万円を見込む

2024年

テゴプラザンの中国販売がさらに伸長し、販売ロイヤルティ2,007百万円を見込む
その他、テゴプラザン（日本）を含む契約一時金等で1,638百万円を見込む

内訳に戻ります。

事業収益ですが、伸びる部分はこちらに少しお示ししましたが、やはりロイヤルティが伸びるとい
う形です。特に24年度には、現在の試算では1年間で20億円を超える収益が出るのではないかと
踏んでおります。

あと、契約一時金・マイルストーンが、来年度は12億1,400万円、再来年度は16億3,800万円と
いう形で収益を見込んでおりますが、当然ながら、まだまだこれから化合物をつかって、新しい化
合物で契約一時金を出そうと考えておまして、成功確率の問題もありますので、控えめにしてお
ります。うまくいけば、これ以上の収益を上げられるようなコンパウンドづくりに今、創薬研究部
門が取り組んでおりますので、われわれとしても、つくったものを少しでも高く売ろうというこ
とで、今、いろいろな情報収集をしながら、この辺の数字の確度を高めていこうと取り組んでい
る状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

企業価値最大化を最優先し、 中長期的に株主還元を実現する



資金の状況と配分です。

以前は 89 億円とトータルを言っていたのですが、売上が増えましたので、そういう意味では大体 93 億円、3 カ年で売り上がると見ております。これらをもとに、探索研究、前臨床試験、臨床試験、あるいは設備投資とか、こうしたものに積極的な投資を行っていく考えです。

基本的には、やはり企業としては黒字化を目指すのが基本にあると思います。特に何か大きな、こういうアップサイドが狙えるから開発投資で瞬間的に、一時的に赤字になりますということが出てくれば、恐らく株主の皆様にも納得していただけるような開発投資をやるよということで説明した上での取り組みになりますが、現時点では、やはりなるべく黒字を維持しながらそういう開発をしたいと思っておりますので、大きな赤字転換とか、そういったことは現時点では考えておりません。

株主様にどうやって還元していくかというところですが、これは黒字が基本だと言いましたが、もう一つは自己株式の取得、こうしたものも株価、市況を見ながら機動的に行っていきたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

今日はアナリストの皆様や機関投資家の皆様がいらっしゃるところなので、もう少し踏み込んで言いますと、アメリカでは自己株式の取得で課税されるというのがいろいろと報道でも出ているかと思いますが。その駆け込み需要で、アメリカではいろいろと動きが出るとは思いますが、もしかしたら日本もそうした動きがあるかもしれません。まだ決まっている状況ではありませんけれども。

そうした外部要因なども見ながら、この辺は機動的にやりたいということで、いつとか、どれぐらいの規模でというのは、なかなかお話しできる状況ではないですが、念頭としては、やはり株主様に還元するためには、われわれとしては、配当よりはまず株価を上げることを最優先に取り組みたいと考えているところです。こちらは、何らかの意思決定があり次第お知らせさせていただこうと思います。

ちょっと駆け足になりましたが、説明としては以上になります。

司会：武内様、ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、これから質疑応答といたします。

ご質問のある方は挙手を願います。マイクをお持ちいたします。

都築 [Q]：みずほ証券の都築と申します。お世話になっております。ご説明ありがとうございます。私から何点かあります。

まず、2Qの数字は、2Q単独で11億円ぐらいの売上を上げているということだと思いますが、もともとの1Qのご予想だと7億8,900万円だったと思います。ここの差異はどういった要因ですか。

武内 [A]：ご質問ありがとうございます。

差異については、実はどれか一つということではなくて、販売ロイヤルティの増であったり、子会社の収入の増であったり、マイルストーンであったりと、そうした組み合わせによっての変動要因になります。ちょっと歯切れが悪いのですが、想定よりは増えたという形になります。

都築 [Q]：イメージとしては、中国のマイルストーンが販売としては早くなったから、そこが前倒しされて、ロイヤルティとしても伸びていて、イメージとしては半々ぐらいの感覚ですか。

武内 [A]：すみません。契約上、若干答えにくいのですが、中国のマイルストーンは、おっしゃるとおり入っております。

一方で、ロイヤルティに関しては、海外の取引でよくあるのですが、着金を1回するまでは収益の確実性とかをチェックしなければいけないということで、まだ実は織り込んでいない状況です。それが見えれば、あらためてこの期間は今年度に計上するのが妥当ですとフィックスしてからになりますが、第2四半期はそうしたものは入っていないというのが率直なところです。

都築 [Q]：分かりました。中国のロイヤルティは、ある程度は入っているというのが4Qとおっしゃっていたのですが、計上タイミングは、見るからに4Qなのかなというイメージはあります。

今後、来年、再来年とかの中で、計上タイミングはどのようになっていく、季節性とかはありますか。Luoxinの件は。

武内 [A]：今のところ、HKイノエン様との契約が、HK様の計上を見れば分かってしまうのですが、契約上、半期に1回という体裁を取っております。これはもともとわれわれが最初にライセン

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



スしたときに、まだCJヘルスケア様といわれていた時代の契約でして、彼らが未上場だった時代の話でして、HK様はご案内のとおり上場されています。

上場会社は、やはり四半期ごとに計上しなければならず、レポートがあるはずなので、そういう単位で切り替えないかという提案を今しているところです。今話しているところですが、契約に基づく、恐らくまだ半期に1回ということになりますので、われわれとしても対外的な数字としては半期の計上ということで織り込んでおります。

都築 [Q]：分かりました。

あと、Eli Lillyとのフェーズ2の開始の話があったと思いますが、これはマイルストーンを見ると、4Qに織り込んでいるのか、先方のものだからそもそも織り込んでいませんという話なのか、これはどういうところですか。

武内 [A]：ご質問ありがとうございます。

今年度の一部を織り込んではいりますが、すみません、契約があって具体的に言えないのですが、やはり確度の問題とかも反映させたほうがいいだろうということで、若干保守的に見ています。

都築 [Q]：分かりました。これは今年度ではなくて、12月までにということでもいいですか。今年度ですか。

武内 [A]：当社は会計年度が12月なので、12月までに一定の割合を見ているということになります。ただ、開始が年内でなければ、当然、今期の収益ではないということになりますので、そのときは、そのようにまた報告させていただくことになるかと思います。

都築 [Q]：分かりました。

あと、中計のところでお話を伺いたいです。23年の売上高の数字を上方修正されているということですが、これは中国の200億円を見込んでの数値に変更されたという印象なのか、そもそも200と言いつつ、そこまではまだ見込んでいませんという数値なのか、これはどのように捉えたらいいですか。

武内 [A]：ありがとうございます。

回答としては後者です。会社様が上げた数字をそのままというのは、まだ1回もわれわれは計上できている状況ではないので、そこは保守的に見ようということで、あまり強気には見ていないです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



都築 [Q]：ありがとうございます。

すみません、長くて恐縮です。あと1問だけです。24年の一時金のところに、テゴプラザンの一時金と書いていただいていると思いますが、これはイメージとしてはP3試験が終了しているであろうタイミングという意味での、こういう時期の設定ですか。

武内 [A]：もともと計画していたときは、PMDA様と相談をする前の数値になります。今、相談をしながらどうするかというのを考えているところではあります。

正直言うと、海外でも販売されていますし、各国で今、承認申請を行っている状況ですので、おそらく通常でいくと、もっと強気な数字を織り込むことが株主の皆様にご期待されているところではあるとは思いますが、その辺は若干保守的に入れています。いったん期首の数字のまま変えていないという状況です。想定はだんだんと変わってきているかなというところです。

都築 [M]：分かりました。ひとまず以上とします。ありがとうございます。

司会 [M]：それでは、他にご質問のある方はいかがでしょうか。

質問者 [Q]：ご丁寧なご説明ありがとうございました。もし前の方のご説明で詳しくいただいていたらご容赦いただきたいのですが。

前回の決算説明会のときも似たような質問をさせていただいたかもしれませんが、去年の3月に旧経営陣が黒転のめどを立てましたというところで、社長が株主総会で経営権を変えられて今回に至ってというところですが、ちょっとぶしつけな質問で本当に恐縮ですが、現体制になったからこそ変わっているところはどのようなところなのかなというのが、率直な、お話をお聞きして、前のままでもできたのではないのかというのは思わないでもないところはあります。どこが一番変わっていて、2年後、3年後ぐらいに至る先は、今どう変わっているのかというところをもう少し詳しく教えていただければと思います。

武内 [A]：すみません、半分、私とか須藤とか、その辺の売り口上になってしまうのかもしれませんが、大きく変わった点としましては、まず黒字化できたかどうか、そこに関しては、もしかしたら旧経営陣でも黒字だったのではないかとは思いますが。ただ、黒字の幅は、恐らくわれわれになったことで、あのようには増えたとは思いますが。

なぜかといいますと、やはり契約一時金とかマイルストーンとか、いろいろな要因で前期も上方修正できましたが、やはりそうした点にしっかりと、失礼ながら前経営陣に比べると取り組めたのではないかと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



もう一つは、やはり新しい創薬の取り組みというところですが、本日ご紹介させていただきましたソシウム様や STAND Therapeutics 様、こうしたところの取り組みですけれども、もちろん過去も全くやっていなかったわけではないと聞いております。ただ、やはり黒字化を優先するために積極的な投資ができなかった部分もありますので、そうしたところは、われわれになって黒字にもなりましたし、技術のチョイスというところでは、恐らくこれまでにないチョイスをしていると思いますので、そうした点では意欲的に言えば聞こえはよいですが、かなりリスクを取るような挑戦をしているところがございます。ただ、これはもう本当に初期のもので、成功しないとうまくやりましたという話ではないですが、少なくとも、経営の方針としては、そういう新しい技術を入れて、イオンチャネル創薬自体のバージョンアップを目指そうというのは大きな違いかと思えます。

あともう1点、これが一番個人的には株主の皆様にとっても、投資家の皆様にとっても大きなポイントではないかと思っているのですが、やはり臨床開発の取り組みを再び始めたという点になります。

実は昨年10月に臨床開発の部長を1人採りましたし、この7月にも臨床開発の部員を1名増やしました。それはテゴプラザンも含めてです。やはり世界の創薬でいきますと、開発をやって、それである程度進んでから買うというのは結構増えているのですが、日本の場合、どうしても早期の導出を非常に株主様も期待されていますけれど、現実問題として資金が付いていかないのが、早期のライセンスをせざるを得ないところがあります。

ただ、お国としてもそういうのは少しずつ直した方がいいというところで、いろいろな形で投資家との対話を増やしたり、開発しやすい環境でベンチャーにも来てほしいと、PMDAさんが門戸を開いたりされています。そうしたところに入っていけば、われわれとしても開発をして、開発が進めば、当然ながら成功率も上がっていきますので、その分バリューも上がってくると。そうすることが会社の付加価値になるということで、そうした取り組みをわれわれの代になって再び始めたというのが、一番やはりバリューを上げるための取り組みになると思っていまして、そこが違いかと考えています。

質問者 [Q]：ご丁寧にありがとうございます。目に見えてやはり変わったなと分かってくるのは、時間軸としていつぐらいのイメージですか。

武内 [A]：そうですね。何をもちえて変わったなというと、いろいろな見方があるかと思えます。一つは、例えば株価です。株価は残念ながら多くの株主様の期待に沿っていないと思えますし、われわれ自身もまだまだ現時点でもっと潜在的な価値があると思っております。きょう来て

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



いらっしゃる、みずほ証券様には株価 1,800 円という目標株価を算出していただきましたが、そういう価値は十分あると思うのですが、そうしたところに至っていない、まだまだ足りていないと思いますので、少し時間がかかると思います。

ただ、創薬とか、今、言った取り組みは、製薬会社の方と話していると、新しいモダリティの取り組みは実は目を付けていた会社なんだよということで、結構スピーディーに新しいのをやっているねという、そういう意味では、変わったと評価をいただいているお客様といたしますか、ステークホルダーの方もいらっしゃいまして、さまざまです。

ただ、もう少し認知していただくためには、やはり臨床開発が成功しましたとか、新しい開発化合物でライセンスをしましたとか、目に見える形では、この中計の中でできれば実現したいと思っているのですが、まだもう少し時間がかかると思っています。

司会 [M]：それでは、他にご質問のある方はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご質問もないようですので、以上をもちまして、ラクオリア創薬株式会社様の IR ミーティングを終了いたします。

本日は皆様、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

武田 [M]：どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

